

復活節第2主日

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」

ヨハネ 20,19-31

復活の喜びを祝う八日間が過ぎようとしています。福音は、復活して弟子達一人一人ずつと出会うイエス様の姿を語りました。そして今日イエス様が、弟子達の中で最後にトマスに現れるお話を聞きました。この「使徒トマス」の信仰について分かち合いながら主の復活を默想しましょう。「トマス」の名前はマタイ、マルコ、ルカによる福音では十二使徒の一人としか現れませんが、ヨハネによる福音では三つの記事に関連して9回現れます。「トマス」と言う名前はアラム語で「双子」の意味があります。また、トマスの別名であるディディモ（ヨハネ11.16）は「二つの」や「二面性」という意味をもっています。

トマスは「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」（ヨハネ20.25）と言いました。この発言により、トマスは未だにイエス様の復活を信じていないことが分かります。トマスは弟子達の中でも不信と疑惑を持った信徒の代表者として私達の記憶に残っています。実際、多くの人が、トマスのこの言葉を使って、見て触れられるものだけを信じる傾向にある現代の人々の不信と懐疑主義を表現しています。しかし、トマスはただの疑い深くの信じないひとではありません。むしろ彼は信じることを慎重に考える人で、そのため目に見て触れることができる証拠を求める人でした。トマスは自分の前に現れた復活したイエス様に「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい」と語りかけられた時すぐに自分の不信を捨ててイエス様を信じました。

ヨハネ福音書でトマスはラザロの死に直面したときに彼が見せてくれた強い態度（ヨハネ11.16）に比べて、ここではとても弱い姿を現します。

トマスは十字架でイエス様が亡くなられた事に対してかなりの衝撃と絶望を感じたと考えられます。このトマスにイエス様は次のように仰せになりました。「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」。

ここでは信じない人と信じる人が対照されます。トマスと言う名前の意味のように、トマスの強さと弱さの二面性を示しています。この御言葉にはイエス様の復活を信じるか、信じないかの対照が表されています。

イエス様のトマスに対するはっきりした要求は「信じる者になりなさい」です。これは単純なお勧めではなく、命令です。しかし、この命令はトマスの慎重であるが、優柔不断な態度を責めるためではなく、信じる者になっていないことをあわれに思われたのです。

また、彼がしっかりとゆるぎのない信仰を保てるように望む主の愛情表現でもあります。この御言葉を頂いたトマスは自ら復活の主を告白するようになりました。

ヨハネ福音書で語られるトマスは長い信仰の旅路を歩んだようです。つまり真理でない段階から真理の段階へと進みました。トマスは主と一緒に死のうと言ったいちばんの信仰から始め（ヨハネ11.16）、悩み不安な状態の信仰の段階もありましたが（ヨハネ14.5）、ヨハネ福音によりますと最後に至って、つまり復活の主に出会ったときに最高の信仰告白である「わたしの主、わたしの神」にたどり着きます。結論としていいますと、トマスは険しい信仰の旅路をあゆむキリスト者を象徴する人物なのです。

私達の信仰の旅路にも二面性や、二つに引き裂かれた信仰の状態はなかったでしょうか。いちばんイエス様を信じているのか？もし信じているのなら、何が信仰と現実の生き方の違いを生み出しているのか？自分のどのような部分が絶望や失望を作っているのかを顧みましょう。その弱い部分をイエス様に委ねましょう。

「わたしの主、わたしの神よ！」